企◆業◆紹◆介

服部興業株式会社

―「一枚看板にこだわらない」創業200年の経営姿勢 ―

会社概要

本　　社●岡山県岡山市北区平野 620
代表取締役社長●服部 俊也
創　　業●1818 年 4 月 7 日
設　　立●1950 年 9 月 1 日
資 本 金●3,000 万円
グループ売上高●120 億円（2024 年度）
従業員数●171 名

事業内容●建築・土木資材の販売・施工および石油製品の販売、コンビニエンスストア運営、カーリース事業、山林業、不動産運営

会社ウェブサイト●https://www.hattori-k.co.jp/

服部興業（岡山市北区平野）の事業は多岐にわたる。建築資材の販売、石油製品の提供、ガソリンスタンドやコンビニエンスストアの運営、不動産事業や山林の管理など。会社の顔は一つだけでなくてよい。「一枚看板」を掲げることにこだわらない。これが、同社が創業から 200 年間貫いてきた経営姿勢である。

◆牛窓で創業、地域とともに発展

服部興業の原点は、1818 年（文政元年）に瀬戸内市牛窓町で「若葉屋」の屋号で始めた木材業にある。

牛窓で木材業を営んでいた頃の写真

地域の発展に不可欠な資材を供給する中で、創業の原点となる「地域とともに」の信念が生まれた。明治、大正、昭和へと時代が移り、日本の近代化が加速するにつれて、社会が求めるものも大きく変化した。同社はこの変化を的確に捉え、事業の舵を大きく切る。1931 年（昭和 6 年）、三井物産の特約店としてセメント販売を開始。1937 年（昭和 12 年）には石油製品の販売を始めた。

これらは道路や港湾、工場といった近代的なインフラを整備する際に必須の資材であり、服部興業が岡山の近代化を支える存在へと急成長するきっかけとなった。

1960 年（昭和 35 年）にはガラス、1965 年（昭和 40 年）には鋼材の取り扱いを開始し、建築・土木資材を幅広く供給する総合商社としての地位を確立。日本を代表するゼネコンを主要取引先とし、地域のランドマークとなる建築物に携わることで、岡山の街の風景を創り上げてきた。

◆地域密着で時代のニーズに応える

一連の事業の多角化は、単なるリスク分散や利益追求の結果ではない。木材からセメント、石油、鉄、ガラスへ。地域の発展につながる資材を最適なタイミングで供給し続けることで、「地域とともに」という理念を具体的な事業戦略として機能させようと試みてきたのである。

時代のニーズをつかむ感度は、現代的な BtoC 事業の展開を実現させた。2018 年にはコンビニエンスストア運営に参入。2022年には、車両販売・カーリースとコインランドリーを併設した複合店をオープンさせた。ガソリンスタンド運営や駐車場経営も好調だ。これらの事業は人々の日常生活に密着したサービス

を提供し、BtoB 事業とは異なる分野での安定した収益基盤を築くことに成功している。

◆地域林業の未来をつくる

服部興業の多種多様な事業の中で、最も未来志向であり、服部社長の企業哲学を色濃く反映しているのが山林事業だ。

同社は、岡山県北部の真庭市に 400 ヘクタールもの広大な自社林を所有し、森林経営を行っている。その活動は、木材を生産するという従来の林業の枠を大きく超えるもので、計画的な間伐や林道の維持管理といった持続可能な森林管理をはじめ、学生や取引先などを対象とした環境教育の場を提供している。また、社員研修にも活用し、林業の魅力と自然の多様性を実感してもらう取り組みを行っている。さらに、ドローンやセンサー技術を活用した「林業 DX」にも挑戦し、伝統的な産業に革新をもたらすという目標を掲げる。

この取り組みの先進性は、地域との連携によって輝き始めた。2025 年、服部興業は真庭市と「真庭市有林を核とした林業振興の取組に関する協定」を締結。真庭市は市の面積の約 8 割を森林が占め、バイオマス発電などで知られている。2018 年には、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた優れた取り組みを行う都市として、当時の安倍首相から「SDGs 未来都市」（初回選定）と「自治体 SDGs モデル事業」に選定された。

そのような先進的な自治体と協業し、獣害対策や DX といった現代的な課題解決を含めた森林管理に取り組んでいる。これは地域林業の未来を切り拓く画期的なモデルケースといえる。

◆300年企業を目指す矜持

都市の発展に必要な建材やエネルギーを供給する「創造者」としての顔と、森を育て、

社長
服部 俊也 氏

1971年、東京都生まれ。2歳から中学2年生までケニアとバングラデシュで育つ。慶応義塾大学商学部卒業。日本交通公社（現JTB）に入社後、服部弘平前社長の長女と結婚。2004年服部興業に入社。2007年、8代目社長に就任。

地球環境の未来に貢献する「守護者」としての顔。相反する 2 つの役割を同時に担うことができる企業は全国的にも稀有だろう。

社員やその家族が参加した植林イベント

創業から守り続けている最も古い仕事である林業が、今や最も新しい挑戦になった。木材を伐採するだけではなく、森の営みを記録し、自然を学ぶ場として開放している。利益はささやかでも、次世代に与えるインパクトは大きい。

木が年輪をゆっくりと着実に重ねていくように、服部興業は経営を急がない。一層ずつ、地盤を固めながら、この先 100 年も揺るがない会社をつくる。これこそが創業 200 年の老舗の矜持である。

（当研究所　千代明弘）